

■ 『中央公論』の名編集者

滝田 樗陰

たきた ちょいん

出身地 秋田市

1882年（明治15年）～1925年（大正14年）

文芸雑誌『中央公論』によって論壇、文壇をリードする。有名作家の作品を紹介するとともに、多くの新人作家を発掘。吉野作造らの論説を掲載し、大正デモクラシーの風潮を牽引した。



年譜

- 1882年 秋田市に生まれる。本名・哲太郎。
- 1903年 東京帝国大学文科大学入学。
『中央公論』の翻訳を担当。（アルバイト）
- 1904年 『中央公論』記者となり文芸欄を設ける。
- 1906年 夏目漱石を執筆者に迎え漱石山房のメンバーに。
- 1909年 『中央公論』の編集の傍ら、徳富蘇峰の国民新聞社に入りまもなく退社。東京帝国大学を中退。
- 1912年 中央公論社編集主幹となる。
- 1914年 この頃より、デモクラシー思想の普及をめざす。
- 1925年 東京都で没。43歳。